

キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10571006				
授業名	現代人の生活倫理 F	形態	講義	単位	2
担当教員	魚谷 雅広				
開講学期	2019年度 後学期	曜日・時限	月曜3限		
授業目的	現代社会の特質について理解を深め、その社会を生きていくための倫理について考察し、自らを律する視点を養う。				
授業内容	現代社会に特有の倫理的諸問題、特に大衆社会、科学技術、共生社会をめぐる倫理的諸問題を中心に、西洋倫理思想の文脈でなされる議論について学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳や倫理といった社会規範が身近なものであることを自覚し、それらが存在することの意義について理解を深める。</li> <li>・権威に盲従したり「空気」に流されたりすることの危険性を理解し、自律的に行動することの重要性について考察することができる。</li> <li>・科学技術がもたらす倫理的諸問題について理解し、科学技術と倫理的に向き合う姿勢について考察することができる。</li> <li>・「共生社会」に求められるいくつかの基本理念や共感の役割について理解し、その社会に参画する姿勢について考察することができる。</li> </ul>				
ディプロマポリシーとの関連性	<DP1-(4)> 人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。				
授業形態	基本的には講義形式であるが、授業内容に関する意見交換や簡単なディスカッションを行うなど、アクティブラーニングの手法を取り入れる。学生の主体性が発揮されるような具体的かつ双方向的な授業形態をめざす。				
事前・事後学習の所要時間	講義時間30時間（2時間×1コマ×15週）＋事前事後60時間（第1～15回目授業までの総合計）				
テキスト	適宜、資料を配布する。				
評価方法	課題レポート、授業内試験により総合的に評価する。				
評価基準	課題レポート30点、授業内試験70点				
試験・レポート等のフィードバック	提出されたリアペもしくはレポートについては、次の回に講評・解説を行う。 また、14回目に授業内試験を実施し、15回目にその解説および授業のまとめを行う。				
注意事項及び履修条件	各回の事後学習については、配布の所定用紙（A4用紙1枚）に手書きで行うこと。この用紙のみ、授業内試験への持込みを許可する。				

S：100～90、A：89～80、B：79～70、C：69～60、D：60未満

第1回	
事前学習	辞書や事典などで「倫理」および「道徳」という言葉について調べ、内容を自分のノートに書き写しておくこと。
授業内容	オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の目的、内容、到達目標を確認する。事前学習・事後学習の説明、講義の受け方、評価の仕方等、一連のオリエンテーションを行う。</li> <li>・「倫理」と「倫理学」との違い、この講義における「生活倫理」のとらえ方について整理する。</li> </ul>
事後学習	所定の用紙（A4用紙1枚）に「1. 授業の要点」をまとめること。また、自ら授業内容に関する疑問・関心を「2. 問い」として立てること。可能であればその問いについて調査・考察することが望ましい。
参考文献	新田孝彦『入門講義 倫理学の視座』世界思想社,2000（第2章、第1節）

第2回	
事前学習	私たちの生活を秩序あるものに行っているルール（社会規範）にはどのようなものがあるか具体的な事例を考えノート1ページにまとめてくること。
授業内容	様々な社会規範とその相違（「倫理」の位置づけ） <ul style="list-style-type: none"> <li>・風土や文化・慣習が異なれば、社会規範も異なることを理解する。</li> <li>・法と倫理（道徳）との相違について理解する。</li> </ul>
事後学習	所定の用紙（A4用紙1枚）に「1. 授業の要点」をまとめること。また、自ら授業内容に関する疑問・関心を「2. 問い」として立てること。可能であればその問いについて調査・考察することが望ましい。
参考文献	J.レイチェルズ『現実を見つめる道徳哲学』晃洋書房,2003 和辻哲郎『風土』岩波文庫,1979

第3回	
事前学習	配布資料を読み、要点をノート1ページに整理しておくこと。
授業内容	「空気」について考える(1) <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活において自覚的にあるいは無自覚に「そうせざるをえない」状況へと人々を追い込む「空</li> </ul>

気」の存在について、H.アレントによる考察を通じて考える。

事後学習	所定の用紙（A4用紙1枚）に「1. 授業の要点」をまとめること。また、自ら授業内容に関する疑問・関心を「2. 問い」として立てること。可能であればその問いについて調査・考察することが望ましい。
参考文献	河上正秀他編『変容する社会と人間』北樹出版,2014 H.アレント『イエルサレムのアイヒマン—悪の陳腐さについての報告』みすず書房,1969 阿部謹也『学問と「世間」』岩波新書,2001 土井隆義『友だち地獄—「空気を読む」世代のサバイバル』ちくま新書,2008 山本七平『「空気」の研究』文春文庫,1983

第4回	
事前学習	配布資料を読み、要点をノート1ページに整理しておくこと。
授業内容	「空気」について考える(2) ・社会生活において自覚的にあるいは無自覚に「そうせざるをえない」状況へと人々を追い込む「空気」の存在に抗して、倫理的に振る舞うにはどうしたらよいかミルグラムによる実験を通じて考察する。
事後学習	所定の用紙（A4用紙1枚）に「1. 授業の要点」をまとめること。また、自ら授業内容に関する疑問・関心を「2. 問い」として立てること。可能であればその問いについて調査・考察することが望ましい。
参考文献	河上正秀他編『変容する社会と人間』北樹出版,2014 スタンレー・ミルグラム『服従の心理』河出文庫,2012 H.アレント『人間の条件』ちくま学芸文庫,1994

第5回	
事前学習	科学技術が現代社会にもたらしている問題を一つ取り上げて調べ、その報告をノート1ページにまとめること。
授業内容	科学技術について考える(1) ・現代社会において我々の生き方に決定的な影響を与えている科学技術の是非について、どのように考えたらよいか具体的事例を通じて考察する。
事後学習	所定の用紙（A4用紙1枚）に「1. 授業の要点」をまとめること。また、自ら授業内容に関する疑問・関心を「2. 問い」として立てること。可能であればその問いについて調査・考察することが望ましい。
参考文献	開沼博『はじめての福島学』イースト・プレス,2015 DVD『フタバから遠く離れて』『フタバから遠く離れて 第二部』新日本映画社 DVD『日本と原発 4年後』Kプロジェクト

第6回	
事前学習	デカルト、F.ベーコン、リオタールという三人の人物について調べ、ノートにまとめること。
授業内容	科学技術について考える(2) ・科学の正当性が生み出されてきた思想的起源についてデカルト、ベーコンを中心に理解する。 ・リオタールの思想を手がかりとして、科学の正当性が揺らいでいることについて考察する。
事後学習	所定の用紙（A4用紙1枚）に「1. 授業の要点」をまとめること。また、自ら授業内容に関する疑問・関心を「2. 問い」として立てること。可能であればその問いについて調査・考察することが望ましい。
参考文献	河上正秀他編『変容する社会と人間』北樹出版,2014 R.デカルト『方法序説』岩波文庫,1997 ベーコン『ノヴム・オルガヌム』岩波文庫,1978 リオタール『ポストモダンの条件』水声社,1989

第7回	
事前学習	H.ヨナスという人物および彼の「責任倫理」について調べ、ノートにまとめること。
授業内容	科学技術について考える(3) ・科学技術をそれがもつリスクによって評価する考え方について検討し、これからの我々が、科学技術とどのように向き合うべきかH.ヨナスの「責任」という原理をもとに考える。
事後学習	所定の用紙（A4用紙1枚）に「1. 授業の要点」をまとめること。また、自ら授業内容に関する疑問・関心を「2. 問い」として立てること。可能であればその問いについて調査・考察することが望ましい。
参考文献	河上正秀他編『変容する社会と人間』北樹出版,2014 ハンス・ヨナス『責任という原理（新装版）』東信堂,2010

第8回	
事前学習	前半の授業内容を振り返り、要点および疑問点をノート1ページに整理しておくこと。
授業内容	前半のまとめ ・これまでの授業内容を振り返るとともに、理解の要点を確認する。 ・論述形式の答案作成の練習を行うとともに、定着の度合いを自己評価する。
事後学習	授業での学びを踏まえ、答案を作成し直すこと。次回に課題レポートとして提出する。
参考文献	河上正秀他編『変容する社会と人間』北樹出版,2014

第9回	
事前学習	配布資料を読み、要点をノート1ページに整理しておくこと。
授業内容	「共生」について考える(1) ・人口に膾炙している「ノーマライゼーション」の理念について、ミケルセン、ニーリエらの思想を確認しつつ、批判的に再考する。
事後学習	所定の用紙(A4用紙1枚)に「1. 授業の要点」をまとめること。また、自ら授業内容に関する疑問・関心を「2. 問い」として立てること。可能であればその問いについて調査・考察することが望ましい。
参考文献	河上正秀他編『変容する社会と人間』北樹出版,2014 花村春樹『<福祉BOOKS®>「ノーマライゼーションの父」N.E.バンク-ミケルセン[増補改訂版]』ミネルヴァ書房,1998 バンクト・ニリエ『(新訂版)ノーマライゼーションの原理 普遍化と社会変革を求めて』現代書館,2004 バンクト・ニリエ『再考・ノーマライゼーションの原理 その広がりや現代的意義』現代書館,2008 河東田博『ノーマライゼーション原理とは何か 人権と共生の原理の探究』現代書館,2009

第10回	
事前学習	配布資料を読み、要点をノート1ページに整理しておくこと。
授業内容	「共生」について考える(2) ・従来の「平等」が男性中心に考えられてきたことについて、エヴァ・フェダー・キテイの思索を手がかりに考察する。
事後学習	所定の用紙(A4用紙1枚)に「1. 授業の要点」をまとめること。また、自ら授業内容に関する疑問・関心を「2. 問い」として立てること。可能であればその問いについて調査・考察することが望ましい。
参考文献	河上正秀他編『変容する社会と人間』北樹出版,2014 エヴァ・フェダー・キテイ『愛の労働あるいは依存とケアの正義論』白澤社,2010

第11回	
事前学習	ユニバーサルデザインの7原則について調べ、それぞれの具体的事例とともにノートにまとめること。
授業内容	「共生」について考える(3) ・「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」の理念を確認するとともに、その導入が意義を持つためには、我々の倫理的意識の変革が必要であることを確認する。
事後学習	所定の用紙(A4用紙1枚)に「1. 授業の要点」をまとめること。また、自ら授業内容に関する疑問・関心を「2. 問い」として立てること。可能であればその問いについて調査・考察することが望ましい。
参考文献	河上正秀他編『変容する社会と人間』北樹出版,2014 川内美彦『ユニバーサル・デザイン バリアフリーへの問いかけ』学芸出版社,2001 堀正嗣編『共生の障害学 排除と隔離を超えて』明石書店,2012

第12回	
事前学習	配布資料を読み、要点をノート1ページに整理しておくこと。
授業内容	「共生」について考える(4) ・「共感」の道徳的役割について、D.ヒューム、A.スミス、M.シェラーらの思索を通じて考察し、改めて現代人の生活倫理について考える。
事後学習	所定の用紙(A4用紙1枚)に「1. 授業の要点」をまとめること。また、自ら授業内容に関する疑問・関心を「2. 問い」として立てること。可能であればその問いについて調査・考察することが望ましい。
参考文献	河上正秀他編『変容する社会と人間』北樹出版,2014 A.スミス『道徳感情論』講談社学術文庫,2013 M.シェラー『同情の本質と諸形式』白水社,1977

第13回	
事前学習	後半の授業内容を振り返り、要点および疑問点をノート1ページに整理しておくこと。
授業内容	後半のまとめ ・これまでの授業内容を振り返るとともに、理解の要点を確認する。 ・論述形式の答案作成の練習を行うとともに、定着の度合いを自己評価する。
事後学習	授業での学びを踏まえ、答案を作成し直すこと。次回に課題レポートとして提出する。
参考文献	河上正秀他編『変容する社会と人間』北樹出版,2014

第14回	
事前学習	授業全体を振り返り、要点および疑問点を整理して授業内試験の準備をすること。
授業内容	まとめと授業内試験 ・講義内容の要点を確認する。 ・授業内試験を行う。
事後学習	試験内容を振り返り、ポイントや疑問点を整理して自分の言葉でノートにまとめておくこと。
参考文献	

第15回	
事前学習	授業全体を通じて学んだこと・授業を終えて疑問に思うこと・関心を持てたことなど、授業の振り返りを自分の言葉でA4用紙1枚にまとめてくること。
授業内容	授業全体のまとめ 授業内試験の解説とともに授業の総括を行う。
事後学習	授業目的や到達目標に照らして自己の学修を振り返り、向上した点や残された課題について文章にまとめる。
参考文献	河上正秀他編『変容する社会と人間』北樹出版,2014

※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。

ディプロマポリシー	<p>&lt;DP-1&gt; 【社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】 社会生活で必要となる汎用的技能及び社会の一員として求められる態度や志向性を身に付けているとともに、人類の文化、社会と自然に関する知識について理解している。</p> <p>&lt;DP1-(1)&gt; 日本語及び外国語によるコミュニケーション能力を身に付けている。</p> <p>&lt;DP1-(2)&gt; 情報通信機器の活用に関する知識・技能を持ち、利用における法令順守の態度を身に付けている。</p> <p>&lt;DP1-(3)&gt; 問題を発見し、課題を解決する能力を持ち、立案・実行過程で主体性を持って協働できる態度を身に付けている。</p> <p>&lt;DP1-(4)&gt; 人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。</p>
-----------	--